

高齢化する地域住民に配慮した医療再整備で、広さと設備、配置にこだわったトイレ。



1Fに設けられた採尿棚付きトイレ。跳ね上げ手すり、L型手すり、背もたれなどが設置されている。

1940年代から地域の医療を営む滝宮総合病院は、香川県のほぼ中央に位置する総合病院です。建物の老朽化や、旧中央棟と北棟の耐震不足が懸念されるため、診療部門や病棟を整備した本館を建設し、2012年7月に完成。がんの健診・診断・治療や救急機能を充実させるとともに、療養環境の大幅な改善が行われています。今後はさらに、既存の北棟と中棟の取り壊しを行い、健康館(改修)と本館をつなぐ「滝宮モール」を建設。すべての機能が整備されるグランドオープンは、2013年11月を予定しています。

本館を新築し、がん治療・回復期リハビリ病棟などを充実。病棟のトイレには半分散型を採用。

今回の病院の再構築により、新しい本館にはがん治療の充実に向け外来化学療法室を拡充し、最新の放射線治療装置を導入。救急医療のさらなる充実をはかり、これまで分散していた外来部門も集約しました。病室は最低1床当たり8㎡以上の広さを確保。ますます進む高齢化に対応し、3Fには35床の回復期リハビリテーション病棟も備えています。

トータル191床のうち、一般的な個室は54室。2床室や4床室などの病棟のトイレは半分散型のレイアウトにし、広めの空間を確保しました。電子カルテを導入し、外来の患者さんをわかりやすく誘導するため、サインと情報システムを併用した番号表示にするなど、新築と同時に積極的なIT化も推進。地域の大きな期待を受けた環境の整備が、着々と進められています。



左側の4階建ての建物が、新しく建てられた本館。制震構造を採用している。

【滝宮総合病院】

- 竣工年月 / 2012年7月
- 所在地 / 香川県綾歌郡綾川町滝宮486
- 施主 / 香川県厚生農業協同組合連合会
- 設計 / 株式会社内藤建築事務所
- 病床数 / 191床
- 延床面積 / 10,984.21㎡(本館)
18,626.44㎡(全体)
- 構造規模 / 鉄骨造(制震)4階建て(本館)



2層吹き抜けの受付ロビー。外来関係のスペースは緑、診療関係は水色と、サインが色分けされている。



一つの病棟に必ず一つの汚物室を設け、レバーハンドルで水はねの少ない新型の汚物流しを導入している。

設備もインテリアもホスピタリティに満ちた快適に使えるトイレ空間。

トイレはゆったりとした広さを確保し、手すりや背もたれなど、安全を守るための設備が備えられています。1Fの採尿用トイレは、検査ゾーンと隣り合わせに配置した機能的なレイアウト。インテリア性の高い空間の中に、採尿棚も美しく配置され、気持ちよく使えるように工夫されています。

また、患者さんやスタッフの利便性を考慮して、1Fの泌尿器外来には、尿流量測定装置を導入。トイレでいつものように排尿するだけで、尿流測定(尿の勢いや出方の検査)を行うことができ、患者さんの検査負荷軽減に一役買っています。



1F外来の男性用トイレ。小便器はすっきりとしたデザインで、専用の手すりも形状にこだわっている。清掃のしやすさも大きな特徴である。



1F泌尿器外来の、患者さんが自分で簡単に操作できる、尿の勢い・出方を調べるトイレ。検査後の後始末はトイレの水を流すだけなので、看護師さんにも喜ばれている。

Voice 設計担当の方からの声

患者さんが使いにくいケースを排除しながら設計しました。



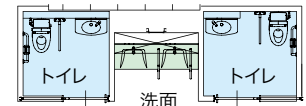
株式会社内藤建築事務所
本社設計部
榎祥一さん

病棟のトイレ配置についてはかなり議論を行いました。集中型では病室からの距離が生じるため、使い勝手を考えると採用できませんでした。また、各4床室の横に設置する分散型は音やプライバシーなどの問題があり、特に夜間は他の患者さんに気を使いトイレに行き辛くなってしまいます。その上、管理・清掃上の問題もある。そこで、半分散型のレイアウトにして、できるだけ広いトイレを確保するとともに、6ベッドに1つくらいの割合にしました。

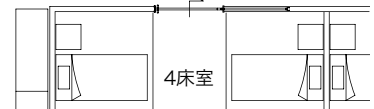
次に4床室の手洗いです。部屋の中…特に窓側に付けると、手前側の患者さんが使いにくい。そこで、これも割り切って外に出しました。トイレも、手洗いも、外にゆったりとしたスペースを確保したのです。両方とも半分散型にして使い勝手を重視したという点では良かったと思います。



1F外来にある女性用トイレの洗面カウンター。質感と手洗いのしやすさにこだわった洗面器を採用している。



廊下



本館4F 4床室とトイレ周りの平面図



落ち着いた雰囲気個室。ベッドサイドにも洗面台を設け、便利に利用されている。



病棟に設けられた半分散型のトイレや洗面台。オープンなスタッフステーションも見える。

Voice 事務部長さんからの声

綿密な計画に基づいた、大規模な再開発ですね。



滝宮総合病院
事務部長
片桐康志さん

複雑な建て替えで全体的な工事期間が長いので、患者さんにできるだけご迷惑がかからないように、スケジュールと移動の計画を立てています。新たな療養環境で、トイレをどうするかはたいへん重要です。自分でトイレに行けることが大切なのですが、お年寄りの方だと我慢してしまう人も多いし、トイレへ行くまでに転倒される人も多い。総合的なケアが求められていると感じますね。

Voice 看護部長さんからの声

トイレは使いやすく、介助もしやすくなりました。



滝宮総合病院
看護部長
山本悦子さん

8月1日に新しい病棟がオープンすると同時に、電子カルテも導入したんです。その準備も同時進行でしたから、かなりたいへんでしたね。4床室のトイレについては、部屋にトイレがあるほうが動線が短くていいという意見もありましたが、広さを確保できたので患者さんにとっては使いやすいと思います。看護する側も、いっしょにトイレに入ってどちら側からでも介助できるのは助かりますね。